

越中・小出出土の露卯の下駄

高瀬保

富山県における露卯の下駄第一号は、昭和三四年に出土した。それを本誌第二四卷第二号に「越中・中沖出土の露卯の下駄」と題して報告した。その後同三九年に富山県露卯の下駄第二号が出土した。

過日筆者はそれを宮本馨太郎先生の来富の折に、おめにかかり報告した。先生は最近新潟・石川・鳥根からも出土したが、その総数はまだ数々たるものである故に貴重である。本誌に報告するようにすすめられた。

宮本先生の厚意に深謝しここに富山県露卯の下駄第二号について報告する。

一出土位置

富山県富山市水橋町小出小字下坪一一八番地の水田の中央の地下約一尺五寸。

ここは標高約六米で、海岸から約二・五軒で、白岩川の右岸に位置した平坦地で、北陸線の水橋駅から北東約一・五軒の地点にあたる。

ここはまた水橋町から寺田部落に通ずる県道八号線と交叉する地点より南方に約一五〇米にある曹洞宗慈眼山大通寺境内に東接する水田の中央にあたる。

二 露卯の下駄の所見及び実測

別図の写真・実測図からもわかるように、鼻緒を通した穴が二ヶ所ある。また差歯の柄を入れる台の穴は中心部でへこんでいること、またその穴が異常に大きいことから差歯の柄を入れる穴は二つになっていたのは元の形と考えられる。材質は栗と考えられ、腐蝕はかなりすすんでいる。この下駄の実測値は次の通りである。

台長	二二・三厘
台巾	六・五厘
台厚	二・八厘

三 発見の動機及び伴出物

発掘地点の土地所有者である大通寺住職加納泰霊氏が昭和三

九年四月一〇日に田地の荒起作業中・鋤の先にかかった直径一尺位の玉石を除去する作業中に出土した。伴出物に土器残片二個と石片一個がある。

この土器残片は室町時代のもと考えられるので、露卯の下駄も室町時代のものである。

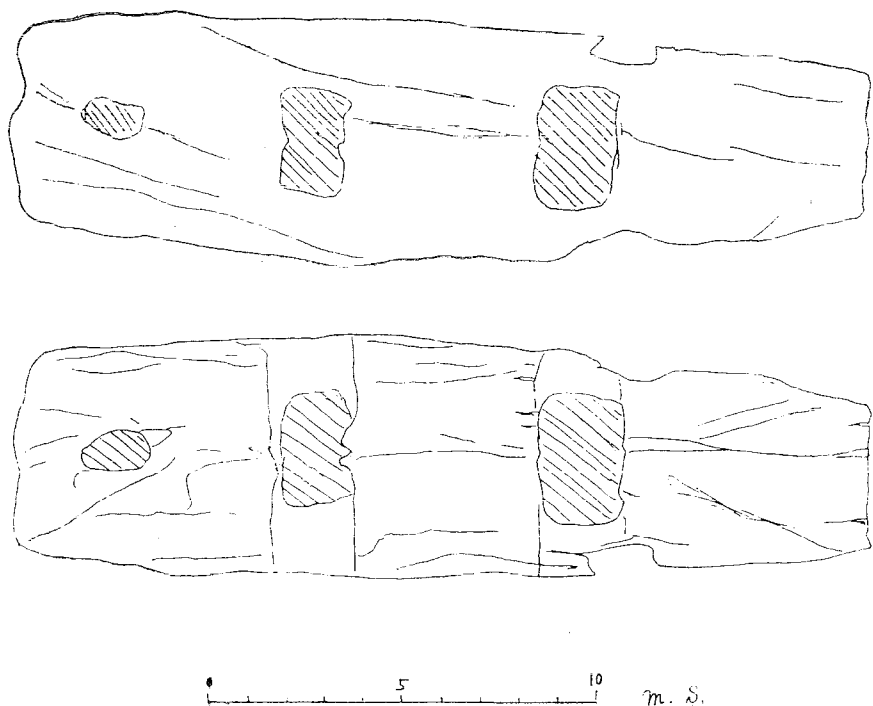
四 発掘地点附近の概況

小出部落は早くから開けた所で、鎌倉時代に既に建仁寺の鉄庵道生はここに越中金剛寺を創建した幅濠の地であった。戦国時代には小出城があり、越後長尾氏、また織田氏の越中攻略に対する抵抗地であり、この時に廃墟に化したという。

境内墓地に五輪塔・宝篋院塔の残欠を多く有する大通寺の由緒は次のように記している。

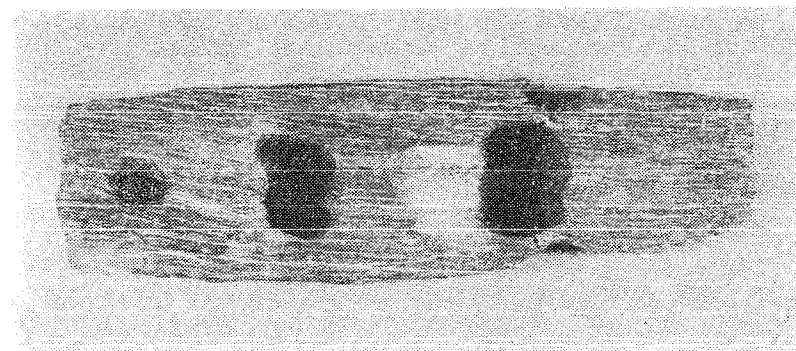
小出村慈眼山大通寺へ往昔後円融天皇永和三年ニ蓬沢ニ於テ眼目山立川寺開山ノ高弟月江応雲禪師ノ創建ナリシガ小出信濃守観音ノ霊告ヲ感じ懇請シテ小出氏ノ城中ニ移リケル其頃小出村ハ人民輻湊市城ノ繁花言モ更ナリ随テ大通寺モ美観ヲ盡シテ一大禪林タリシガ信濃守沙落シテ市城ナリ大通寺モ亦香花ノ備ヒニ乏シク殆ンド断滅セル寛永七年ニ立川寺中興ナル拗山和

露卯の下駄実測図（富山県富山市水橋町小出小字下坪出土）



露卯の下駄

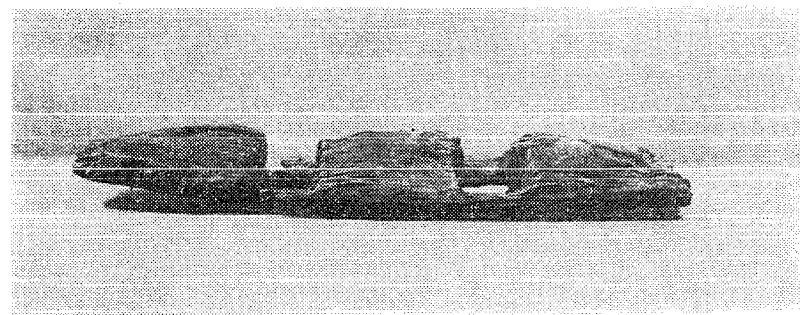
富山県富山市水橋町小出下坪出土（高瀬保蔵）



表



裏



横

尚又観音菩薩ノ靈夢ヲ感シ大通寺ノ故蹟ヲ起シ殿堂旧観ニ復シ
テ香華供養禪定法会モ全盛ナリ——

ここに言う信濃守没落の原因は上杉謙信の来攻によるといわれ、また観音菩薩は同寺の秘仏で室町時代の作とみられる。

また加納泰雲氏の語るところによると大通寺の北隣の畠地、（下駄出土地点ヨリ約一〇〇米北西方）に五〇年以前まで「火の宮」があった。ここを耕作したとき玉石が直径六尺位の出形に三・四段に積まれていた。当地方の土地には玉丸のないのは普通であるので、これはある目的のために作られたものと考えられる。その円形の玉石の垣から二間位南の土中に二寸位の厚さの草櫨の板で作った木の枠が二ヶ所から出土したことがある。出土地点の周囲の歴史は古く、宗教と結びついた土地と考えられる。